



今年度NST委員会メンバー

～ よろしくお祈いします ～

オンライン等活用し、
地域の皆さまへ向け
情報発信していきます！



NST委員会委員長 石田義則



今年度のNST担当者会議予定

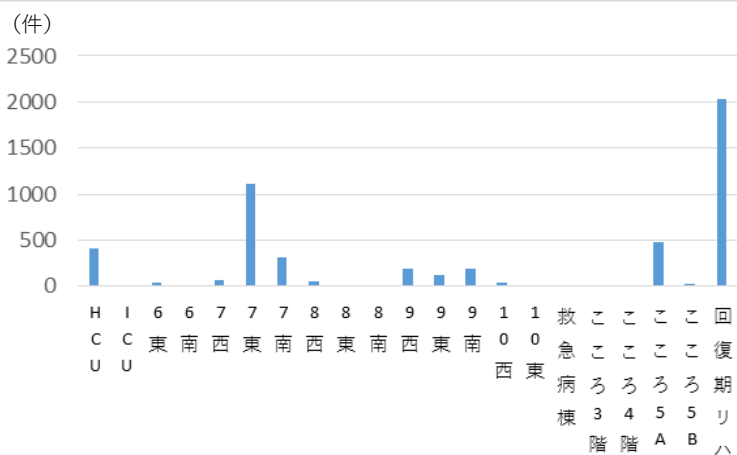
《内容》

- 4月 NSTマニュアル改定、診療報酬（摂食機能療法・NST加算）
- 5月 NST稼働病棟（4病棟の実績）
- 6月 NSTについて
- 7月 NSTに役立つ基礎知識①（講師：管理栄養士）
- 8月 嚥下障害について
- 9月 NSTに役立つ基礎知識②（講師：臨床検査技師）
- 10月 嚥下評価・水飲みテスト・ポジショニング
- 11月 NSTに役立つ基礎知識③（講師：薬剤師）
- 12月 口腔ケア
- 1月 NSTに役立つ基礎知識④（講師：医師）
- 2月 1年間の振り返り（摂食機能療法・NST）

※感染対策をしっかり行い、NSTに関する
知識・スキルUPのために今年度も頑張っていきましょう！

2020年度 摂食機能療法 病棟別算定件数

2020年度4月～3月の算定件数の集計を報告します。
1年間の延べ件数は5087件でした。



2020年度 NST加算算定件数（対象病棟4病棟）

2020年度4月～3月の算定件数の集計を報告します。
1年間の延べ件数は388件でした。



新採用のご案内

アイソカルクリア



1mlあたり1.0kcal		1本あたり200ml
エネルギー	Kcal	200
蛋白質	g	10.0
脂質	g	0
炭水化物	g	40.0
食塩相当量	g	0

- ◆脂質0gですっきりした口当たり
- ◆たんぱく質10g含有し、吸収スピードが速く、BCAA含有量の多いホエイプロテインで構成
- ◆BCAA2530mg（うちロイシン1370mg）
- ◆味はピーチ風味
- ◆特にがん患者の食欲不振に対して、エネルギー・たんぱく質補給として有効

アイソカル100



1mlあたり2.0kcal		1本あたり100ml
エネルギー	Kcal	200
蛋白質	g	8.0
脂質	g	8.0
炭水化物	g	25.0
ビタミンB1	mg	0.39
カリウム	mg	170
鉄	mg	2.0
亜鉛	mg	0.8
食塩相当量	g	0.27

- ◆1P100mlの小容量、飲みきりサイズの総合栄養補助食品
- ◆1mlあたり2.0kcalと高カロリー
- ◆カフェモカ味（患者ニーズが高いコーヒー風味）
- ◆脂質8.0g中、MCT（中鎖脂肪酸）を2.4g配合
- ◆炭水化物エネルギー比48.0%と、糖質割合に配慮
- ◆ビタミン・微量元素を平均的に含有

5月から採用になっています♪

NST豆知識



脂質は、炭水化物・タンパク質と並び三大栄養素の1つです。
エネルギー源としてだけでなく、細胞膜や各種メディエーター類の材料としても重要な栄養素です。
経口や経腸で栄養を摂取できず経静脈的に脂質を補給する場合、脂肪乳剤を点滴する事になります。
当院で採用している脂肪乳剤は、イントラリポス20%100mlです。1本あたり脂肪20gを含み約200kcalです。

<脂肪乳剤のメリット>

- ①糖質の過剰投与を抑え少ない水分量でエネルギー補給可能
* エネルギー効率が糖質の約2倍以上
- ②無脂肪の高カロリー輸液の長期投与による、肝機能低下を予防
* 高血糖→インスリン分泌増加→脂肪合成亢進...数週間で肝に脂肪が沈着
- ③必須脂肪酸欠乏症を予防
* 必須脂肪酸欠乏症...皮膚の弾力性低下や魚鱗癬様変化など。早く数週間で症状出現の可能性あり

<脂肪乳剤のデメリットと対策>

- ①脂質異常
* 脂肪乳剤に含まれる脂肪粒子はHDLによるリポ蛋白化・加水分解を経て利用されますが、投与速度が速くリポ蛋白化が追い付かない場合、脂肪粒子は血液に残ってしまい脂質異常を招きます
- ②免疫能低下
* 加水分解されない脂肪粒子は異物としてマクロファージなどの貪食細胞に貪食されます。その分、他の細菌などを貪食する能力が低下するので感染症などの病態に悪影響を及ぼす可能性があると考えられています
- ③細菌繁殖のリスク
* 栄養豊富な脂肪乳剤は様々な細菌・真菌が繁殖しやすいにもかかわらず、フィルターが使用できません
- ★対策★
◎投与速度は少なくとも『1本あたり72分以上（添付文書）』を遵守となっていますが、静脈経腸栄養ガイドラインでは『0.1g/kg/時以下（体重50kgでは1本あたり4時間）』を推奨しています
◎清潔操作や24時間以内のルート交換などを遵守

★禁忌★
血栓症や重篤な肝障害、重篤な血液凝固異常、高脂血症、ケトosisを伴った糖尿病の患者では禁忌となっていますが、投与速度を厳守し、血清脂質や肝機能・炎症マーカーなどをモニタリングしながら、患者個々の病態に合わせて適切かつ安全に使用し、質の高い栄養管理を目指していきたいものです。



薬剤科
江川綾子